

せたがやホッと

子どもサポート

活動報告会

子どもの相談・救済における子どもの意見（意思）の尊重

「せたホッと」では、子どもが問題解決の主体となれるよう、相談者である子どもと対話を重ね、問題解決のイメージを本人や関係者と共有しながら活動していくことを心がけています。活動を通じて本人が「もう大丈夫」と安心できたとき、子どもは自分で解決する力を身につけ、同時に周囲の人たちの不安も薄れていっているようにも感じます。第2部では、事例を紹介しながら「子どもの相談・救済における子どもの意見(意思)の尊重」について考えていきます。

子どもサポート委員 半田 勝久  
相談・調査専門員 渡邊 峻平



改めまして、第2部を担当させていただきます、サポート委員の半田です。  
相談・調査専門員の渡辺 峻平です。

## 問題を抱えている子どもの複雑な心境



まず、最初に様々な悩みや問題を抱えている、子どもの複雑な心境をイメージしてみました。

しんどい、いらだつ、もやもやする、逃げ出したい、誰かに理解してほしい、けれども誰にも言えない、納得がいかない、自分で解決しなきゃいけない・・・  
問題を抱えている子どもは、このような複雑な心境にあります。

## 「せたホッと」につながるまでの 子どもの心理的ハードル

3

このような様々な課題を抱えている子どもが、せたホッとにつながるまでには心理的なハードルがあります。

## おとなに相談するにはハードルがある

学校のことは先生には  
相談しづらい

自分が悪いって  
怒られたらイヤだな

親にも先生にも友達にも  
ばれたくない

うまく話せるかな？

相談室に  
入っていくところを  
見られたらおしまいだ

名前や学校名を  
言わなきゃいけない？

自分の気持ちは  
分かってもらえない

話を聞いてもらっても  
きっと解決にはつながらない

まず、おとなに相談するにはハードルがあります。

学校のことは先生に話しづらい、相談して自分が悪いと言われたらイヤだ、相談したことが親にも先生にも友達にもばれたくない、うまく話せるだろうか

そして、学校の相談室に入るところを友達に見られたらおしまいだ、相談するには名前や学校名を言わなくてはいけないのだろうか、相談しても自分の気持ちは分かってもらえないのではないか、話を聞いてもらっても解決につながらないのではないか

こういった様々な気持ちがあります。

学校で相談カード  
もらってたよな

検索をかけてみると

「せたホッと」ってどんなところ？

- [どんな人が相談にのってくれるの？](#)
- [何をしてくれるの？](#)
- [どんなことが相談できるの？](#)

何をしてくれるの？

あなたが困っているとき、つらい、イヤだ、権利侵害だと感じたときは相談してみてください。



そう言えば、毎年、学校で相談カードをもらっているの、ちょっとせたホッとを検索してみよう。

パソコン、スマホで、せたホッとを検索してもらうとこのようなホームページが出てきます。

どうやって相談？

毎年相談カードをもらっている  
けどどんなところだろう？

## 「せたホッと」に相談するには？

ツイート

最終更新日 令和2年6月8日 ページ番号 126708

「せたホッと」では、電話やファクシミリ、手紙・はがき、メールや会って相談をすることができます。  
あなたにとって一番やりやすい方法で、相談してください。

子どもの権利侵害にかかわることであれば、おとなの方も相談できます。

ひみつは必ず守ります。安心して相談してください。

<https://www.city.setagaya.lg.jp/mokuji/kodomo/009/003/003/d00126708.html>

6

相談するには、電話、FAX、手紙・はがき、メール、直接会うなどの方法があります。

なるべく子どもに優しい相談環境を整え、多くのツールを使って相談してもらえるようにしています。

## どんなことが相談できるの？

たとえば・・・

仲間はずれにされた。  
友達とうまくいかない。



学校に行きたくない。  
行けなくてつらい。



先生がわかってくれない。  
先生にたたかれた。



親とけんかした。  
ご飯を食べさせてもらえない。  
家庭内で心配事がある。



学校に行きたくない

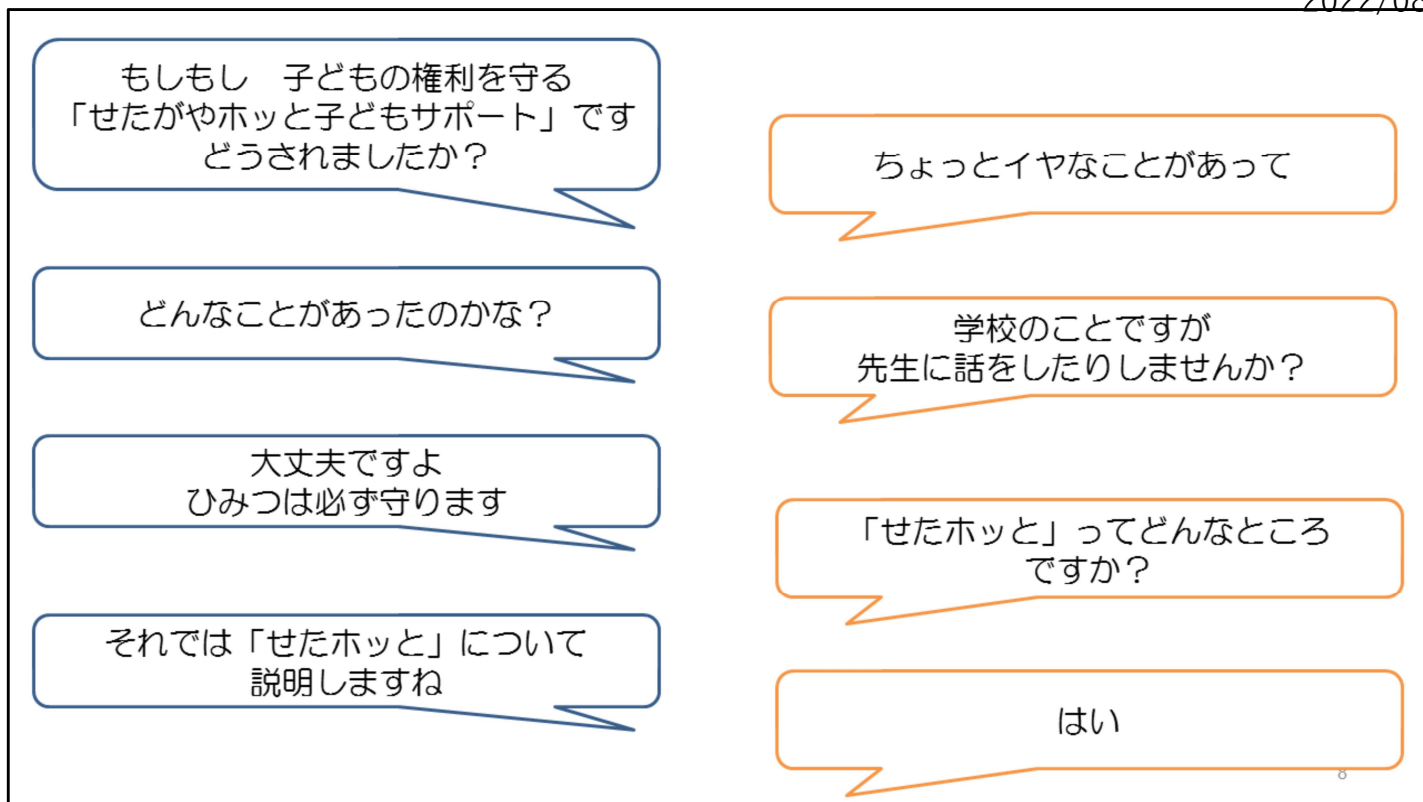
先生がわかってくれない

不安だけど一回相談してみようかな

7

どんなことが相談できるのかということについても、メッセージを発信しています。

学校に行きたくない、先生がわかってくれない、親とけんかしたなどこういった様々な状況に関して、不安だけど一回相談してみようかなと思ってもらえるとありがたいと思います。



電話をもらうと、まず相談・調査専門員が対応します。

- ・「もしもし、子どもの権利を守るせたがやホッと子どもサポートです」と話しかけます。

しかし、子どもはすぐに答えてくれることもあれば、なかなか言葉を発してくれないこともあります。

- ・「ちょっとイヤなことがあって」・・・こんな声が聞こえていきたら、「大丈夫ですよ、秘密は守りますよ」などとやり取りをしながら、せたホッとについて説明することもあります。



## 「せたホツと」ってこんなところだったんだ

安心して自分の気持ちを  
伝えていいところなんだ

自分の気持ちをうまく話せなくても  
大丈夫なんだ

いっぱい話を聞いてくれて  
一緒に解決策を考えてくれる  
ところなんだ

子どものことを第一に考えてくれる  
ところなんだ

気軽に電話したり、メールしたり、  
面談に行ったりしていいんだ

秘密を守ってくれるんだ

自分の意見や気持ちを自分のかわりに  
相手に伝えてくれることもできるんだ

電話代もかからないんだ

9

せたホツとは、

- 安心して自分の気持ちを伝えていいんだ
- 自分気持ちをうまく話せなくても大丈夫なんだ
- 子どものことを第一に考えてくれるところなんだ
- 秘密を守ってくれるんだ
- 電話代もかからないんだ
- いっぱい話を聞いてくれて、一緒に解決策を考えてくれるところなんだ
- 気軽に電話したり、メールしたり、面談に行ったりしていいんだ
- 自分の意見や気持ちを、自分のかわりに相手に伝えてくれることもできるんだ

こんなことを理解してもらえよう、話すこともあります。

## 「せたホッと」について分かって、活用するまではさらにハードルがある

どんなところが分かったけど本当に自分の気持ちを分かってくれるのかな

匿名で学校名を言わずに電話で話してみようかな

会って話をするかは何度かやりとりをしてから決めよう

電話はうまく話せるかわからないから、メールで伝えてみようかな

学校のことはまずは先生に相談するように言われたけど大丈夫かな

先生に気持ちを伝えてほしいけど、それって大事にならないかな

10

しかし、せたホッとがどんなところが理解してもらっても、相談をしてもらえるにはさらにハードルがあります。

- どんなところが分かったけど、本当に自分の気持ちを分かってくれるのだろうか
- 会って話をするかは何度かやりとりをしてから決めようかな
- 学校のことはまずは先生に相談するように言われたけど、大丈夫だろうか
- 匿名で、学校名も言わず電話で話してみようかな
- 電話でうまく話せるかわからないのでメールにしてみようかな
- 先生に自分の気持ちを伝えてほしいと思うけど、大事にならないのかな

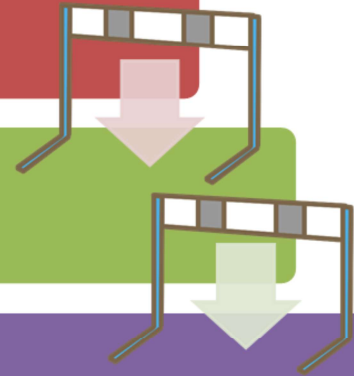
子どもはこんな気持ちを持っているのではないかと思います。

# 子どもが「せたホツと」を活用するまでのハードル

知ること

分ること

活用すること



11

「子どもの現状把握総合研究所の調査」によると、子どもがこのような相談・救済機関を活用するにはハードルがあるとされています。

知ること、分ること、活用すること、ここにはそれぞれハードルがあります。このハードルを越えてもらうためには、様々な説明を丁寧に行う必要があります。

# 「せたホッと」の子どもへのアプローチ

12

では次に、せたホッとから子どもへどんなアプローチをしているかについてお話させていただきます。

# 「せたホッと」の子どもへのアプローチ

子どもにやさしい相談環境の整備（電話、メール、手紙、はがき、会って相談など）

↓  
子どもが何に苦しんでいるのか、どういう気持ちでいるのか

↓  
子どもの現状や気持ちをできる限り子ども本人から丁寧に聴き取る（感じ取る）

↓  
現在起きている問題やその解決の糸口について把握

↓  
どういった方法で子どもの気持ちを尊重していけばよいのか

本人とともに考えていくことを  
心がけている

- まず、電話、メール、手紙、はがき、会って相談するなど、子どもにやさしい相談環境を整備しています。
- そして、子どもが何に苦しんでいるのか、どういう気持ちでいるのかについて、子どもの現状や気持ちをできる限り子どもから丁寧に聴き取ります。
- そのうえで、現在起きている課題やその解決の糸口について把握していきます。
- また、どういった方法で子どもの気持ちを尊重していけばよいのかを考えながら
- せたホッとから提案することにより、本人とともに考えていくことを常に心がけています。

# 「解決主体としての子ども」を中心におくアプローチ

14

子どもの意見の尊重  
子どもの参加

子どもの最善の利益の  
第一次的考慮



(相談者の子どもが望む場合)  
子どもを取り巻く関係性の再構築  
代弁、支援、調整

- せたホッとでは、「解決の主体は子ども」というスタンスを大事にしています。
- そのため、子どもの気持ち、意見を聴き取り、尊重します。
- そして、一緒に考えながら、子どもの最善の利益を第一次的に考慮します。
- そのうえで、解決していくためにはどんな方法があるのかを検討します。
  - 子どもの気持ちを代弁するのか
  - 支援していくのか
  - 学校や関係機関に赴き調整を図るのか
- また、相談者の子どもが望む場合には、その子どもを取り巻く関係性（子どもと子ども、子どもとおとななど）を再構築していくことを中心に活動しています。

# 事例の紹介

※個人情報保護のため、  
内容等の一部変更しています

第2部では、子どもの意見・意思を尊重していくということをテーマに掲げてきました。では、どんな形でそれを実践しているのかについて、ひとつの事例を紹介します。

事例の紹介につきましては、相談・調査専門員の渡辺が担当させていただきます。また、今回、紹介します事例につきましても、個人情報保護のため、いくつかの事例を組み合わせるなど、内容を一部変更しています。

## ～私立中学生の学校・教職員等の対応に関する相談～

本人



○文化祭の出し物（お化け屋敷）のクラスリーダーに  
選ばれる

クラスをまとめるのに苦労

最終的な装飾の決定や先生たちとのやり取りは

すべてリーダーの自分が中心にやらないといけない

リーダーとしての  
の責任感

誰にも頼れない

学校・教職員の対応についての相談でした。

- 本人から電話があり、その子の学校では文化祭を生徒主体で行っており、本人がクラスの出し物のリーダーに選ばれました。
- 本人のクラスはお化け屋敷を企画しましたが、企画を考えたり、クラスをまとめるのにとっても苦労している、また責任者として最終的な装飾などの決定や、文化祭担当の先生とのやり取りなどはすべて自分がやらなければならないという話でした。
- 本人としては、リーダーとしての責任感を強く意識していて、誰にも頼れないという考えであったようです。



## ～私立中学生の学校・教職員等の対応に関する相談～

### ある日のできごと

放課後、装飾班の使用した脚立  
や台車の返却が過ぎてしまう  
⇒急いで返さなきゃ

たまたま通りかかった担任の先生  
「私が返しておくから焦らなくて  
も大丈夫」

担任の先生への  
安心感

後日文化祭担当の先生から  
「なぜ自分たちで責任をもって時間  
内に返却しないのか」  
リーダーに厳しく注意される

先生が大丈夫って  
言ったのに

翌日担任の先生から  
「文化祭担当の先生へ謝りに行こう」

⇒謝りに行くと、リーダーが中心となり、放課後  
クラスで話し合うように言われる

- そのような思いをもって準備を進めていたある日、トラブルが起きてしまいました。  
放課後、いつものように準備をしていたのですが、装飾用に使用していた脚立や台車の返却時間が過ぎてしまいました。  
本人は急いで返さなくてはと思っていたところ、担任の先生が「私が返しておくから大丈夫」と言葉をかけてくれたので、先生に任せて帰宅しました。
- ところが、後日、文化祭担当の先生から「脚立と台車を担任の先生に返させた」と聞いた。なぜ自分たちで責任をもって時間内に返しにこないのか」と厳しく注意されました。
- またその翌日、担任の先生から「文化祭担当の先生に謝りに行こう」と言われました。  
本人としては担任の先生の「大丈夫」という言葉を信じて帰宅したのにという思いはあったものの、担任と一緒に文化祭担当の先生に謝りに行きました。
- 文化祭担当の先生から「リーダーが中心になって、クラスで話し合うように」と言われたため、その日の午後、急きょクラスで話し合うことになりました。

## ～私立中学生の学校・教職員等の対応に関する相談～

### クラスの話し合い

装飾班以外は何を話し合ったらよいかわからない

⇒「なんで装飾班以外も話し合わなきゃいけないんだよ」  
「リーダーがちゃんと返していたらこんな話し合いしなくて済んだのに」「リーダーの資格ない」「やめたほうがいい」

担任の先生に助けを求めるも、  
「遅れたことは事実だから、みんなで話し合って文化祭担当の先生に報告を」

⇒最終的には、クラス全体の問題として受け止め、リーダーが再度謝りに行くことに

心無い言葉による  
傷つき

担任の先生に  
裏切られた

結果として、話し合いの過程で本人含め体調不良になる子も複数出る  
クラスをまとめるのに学級委員や文化祭実行委員にまで迷惑をかけることになってしまう

⇒「文化祭までがんばれそうにない」

- 本人としては、「大事になってしまった。みんなに迷惑がかかってしまった」という思いを抱えながら話し合いに臨んだようです。
- 話し合いでは、  
「なぜ装飾班がやったことで自分たちも話し合わなくてはいけないのか」といった不満や  
「リーダーがちゃんと返しておけば話し合いなどしなくて済んだ」  
「リーダーの資格がない」「リーダーをやめたほうがいい」など、  
心無い言葉を投げつけられ、本人はとても傷ついてしまいました。
- また、本人は担任が守ってくれると思い、担任が大丈夫と言うから任せたと試みてみたのですが、  
担任からは「遅れたことは事実なのだから、みんなでしっかり話し合って、文化祭担当の先生に報告しなさい」言われてしまいました。  
  
本人としては、担当の先生という安心感からお願いしたのに、裏切られたと感じ、担任に対する怒りや悲しみが生じたようです。
- そして、最終的にはクラス全体の問題ということで、リーダーである本人が再度文化祭担当の先生に謝りに行きました。
- このような過程の中で、本人や他の生徒が体調不良になったり、学級委員や文化祭実行委員の生徒にまで迷惑をかけてしまい、  
本人としては「文化祭まで頑張れそうにない」という気持ちになってしまいました。

## ～私立中学生の学校・教職員等の対応に関する相談～

「せたホッと」

- ・担任の先生への怒り、その根底の「守ってもらえなかったことへの悲しみ」について共感
- ・リーダーとしての責任感や、一人で頑張らないとならない不安のなか、今日までがんばってきたことへのねぎらい
- ・文化祭までがんばれなさそうであれば、信頼できる友だちと仕事を分担してみるなどの提案

本人

気持ちを聞いてもらえて良かった。  
頑張れないかもしれないけど、あと少しやってみる

### ●せたホッととしては

- ・担任に対して怒りがあること、その根底にある守ってもらえなかったことへの悲しみに共感し、
- ・リーダーとしての責任感や、一人でよく頑張ってきたとことを労いました。
- ・また、文化祭まで頑張れそうにないというのであれば、無理をしなくてもいいし、信頼できる友達に仕事を分担してもらってはどうかと提案しました。

### ○本人からは

- ・気持ちを聞いてもらえ、一緒に怒ってくれたことで楽になった。  
あと少しやってみると言ってくれ、電話相談を終わりました。

## ～私立中学生の学校・教職員等の対応に関する相談～

本人



文化祭が終わってしばらくして  
「文化祭は無事終わったけど、先生に対しての  
“もやもや”が残っている」

“もやもや”する気持ちを  
何とかしたい

「せたホッと」

“もやもや”が残るのは、それだけ本人が傷ついたと  
いうことだと思う。  
“もやもや”を少なくするために、いろいろなことを  
一緒に考えていきたい。  
定期的に面接に来てみるのはどうだろう？



“もやもや”を解消するために話してみたいけど、、、

実際は、  
「せたホッと」で会って話を  
したらどうなるんだろう



何回かメールのやり取りをした後  
不安をもちながらも、面接で話すことに

- その後、しばらくは連絡がなかったのですが、文化祭終了後、「文化祭は無事に終わったが、担任に対してのもやもやが消えない。この気持ちをなんとかしたい」とメールで連絡がありました。
- せたホッとからは、もやもやが残っているのはそれだけ傷ついたといいいことではないか、もやもやを少なくするために一緒に考えていきたい、面接に来てはどうかと提案しました。
- 本人としては会って話をすることに迷いもあったようですが、何回かメールでやり取りをした後、面接することになりました。

## ～私立中学生の学校・教職員等の対応に関する相談～

### 面接相談

本人

涙を流しながら、自分の気持ちについて話す  
「話し合いの時のような、クラスの集まりになると、つらかった記憶がよみがえってくる」

「実は、推薦入試に必要な英検の試験の日にちが、文化祭の企画書の提出日と被っていて、試験勉強ができなかった」  
「どっちもやらなきゃとプレッシャーだった」

「せたホッと」

大変ななか、よく頑張っていたと思う。  
担任の先生への思いが“もやもや”につながっていると感じる。  
「先生に気持ちを伝えることで、少しは楽になるのであれば  
せたホッとが学校に話に行くこともできるよ」

「先生から『もう終わったことなのに』と言われるのが怖い」

もうこれ以上担任の先生に  
失望したくない

○面接相談では、本人は涙を流しながら自分の気持ちを話してくれました。

- ・クラスの集まりになると、脚立や台車の返却について話し合ったときのつらかった記憶がよみがえってくる。
- ・文化祭の企画書の提出日と、高校の推薦入試に必要な英検の試験日が被っていて、試験勉強ができなかった。どちらもやらなくてはとプレッシャーだった。

●せたホッとからは

- ・大変なか、よく頑張ったことに共感し
- ・担任への思いが「もやもや」につながっていると感じる。  
担任に気持ちを伝えることで楽になるのであれば、せたホッとが学校に行くこともできるよと、伝えました。

○本人は

- ・担任からもう終わったことなのと言われるのが怖い、これ以上失望したくないということでした、。

## ～私立中学生の学校・教職員等の対応に関する相談～

本人として

「自分の気持ちの問題」  
「時間をかけてでも、  
もやもやをなくしたい」  
⇒メールや面接で相談をつづけていく

数回の相談後

本人

「『せたホッと』から  
学校に今回のことについて話してほしい」

「せたホッと」への  
安心感

前に進むために何かしないと  
ならないという気持ち

### 面接相談

自分以外の人に同じ苦しみを味わってほしくない  
管理職や担任の先生に自分が感じた苦しみをわかってもらいたい  
あわせて英検の日と文化祭の企画書の提出日が被らないよう学校としても考えてほしい

どの先生にどのように話してくるかを相談する

⇒どの先生：管理職の先生？ 担任の先生？ 文化祭担当の先生？

どのように：本児の名前は？ 改善点だけ？ 本児が感じたこと？

子ども自身が、自分の気持ちや傷つきについて向き合い、それを乗り越えるためにはどうしたらいいかを一緒に考えていった

- 本人としては、自分の気持ちの問題であること、時間をかけてももやもやをなくしたいということだったので、その後メールや面接で相談を続けていきました。

- そして、数回の相談後、本人から、せたホッとから学校に今回のことについて話してほしいとの要望がありました。

これは、本人の中でせたホッとへの安心感や、前に進むためにはなんとかしないとイケないという気持ちが芽生えたからだと思います。

- 学校との話し合いに向けて面接相談を重ねました。
  - 本人からは、次のような希望がありました。
    - 自分以外の人に同じ苦しみを味わってほしくない
    - 管理職や担任に自分の苦しみを分かってもらいたい
    - 英検の試験日と文化祭の企画書提出日を被らないようにしてほしい

- せたホッととしては
  - どの先生に話すのがよいか、また名前は出しているか、改善点だけを伝えるのか本人が感じたことも伝えるかなどについて、本人と相談していきました。

- このように、子ども自身が、自分の気持ちや心の傷と向き合い、それを乗り越えるためにはどうしたらいいかを一緒に考えていきました。

## ～私立中学生の学校・教職員等の対応に関する相談～

「せたホッと」

学校訪問(1回目)

学校

本児の思い

- ・先生に守ってもらえなかったことへの傷つき
- ・リーダーとしての責任感や不安に対する重圧
- ・英検の日にちと文化祭の企画書の提出日が被ってつらかった
- ・後輩には同じ思いをしてほしくない

担任

- 「何かあったらヘルプを出すようには言っていた」
- 「担任として一生懸命やっていたつもりだが、本児がそんな風に思っていてショックを受けた」
- 「英検の日にちと被っていて確かに申し訳なかった」

担任の先生としての難しさはわかるし、伝えたいと思っていたことが別の受け取られ方をしていたことはショックだったと思う  
→本児としては、苦しい思いをしたし、信頼している先生に受け止めてほしいという思い

学校として一人に負担がかからないようなサポート体制を整えてほしい  
来年度の企画書の提出日は検討してほしい

担任

- 「せたホッと」から話をきいて、本児の思いをくみ取れていなかったというのがわかった」
- 「対応に悩むことはあるが、がんばっていきたい」

管理職

- 「学校全体で共有し、リーダーの子が実力を発揮できるような体制を整えていく」
- 「企画書の提出は負担のかからない日に設定したい」

子どもサポート委員とともに学校を訪問し、担任の先生と管理職にお会いして今回のこととお話ししました。

●せたホッとから、本人の思いを伝えました。

- ・担任の先生に守ってもらえず傷ついたこと。
- ・リーダーとして責任感や不安から重圧を受けたこと。
- ・英検の試験日と企画書の提出日が被ってつらかったこと。
- ・後輩には同じ思いをしてほしくないこと。

○担任からは、次のようなお話しがありました。

- ・何かあったら、助けを求めるようには言っていた。
- ・担任として一生懸命やっていたつもりだが、本人がそんな風に思っていたとはショックだった。
- ・英検の日にちと被ったことは申し訳なかった。

●また、せたホッとから次のような要望も伝えました。

- ・担任としての難しさはわかるし、別の受け取られ方をされてしまったことはショックだったと思う。しかし、本人としては苦しい思いをし、信頼している先生に受け止めてほしいという思いがあったことを分かってほしい。
- ・学校として、一人の生徒に負担がかからないような体制を整えてほしい。
- ・来年度の文化祭の企画書の提出日は検討してほしい。

○これに対して、担任、管理職から次のようなお話しがありました。

- ・せたホッとから話を聞いて、本人の思いを汲み取れていなかったことが分かった。対応に悩むことはあるが、頑張っていきたい。
- ・学校全体で問題を共有し、リーダーの生徒が実力を発揮できるよう体制を整えていく。
- ・企画書の提出は生徒に負担のかからない日に設定したい。





## ～私立中学生の学校・教職員等の対応に関する相談～

### 学校訪問(2回目)

学年が変わったタイミングで再度学校を訪問

管理職の交代に伴い、改めて本児の気持ちと今年度の文化祭のあり方、および体制について話し合い

⇒「せたホッと」として、1回の訪問で終わるのではなく、フォローアップをしていく

- 学年が変わったタイミングで、再度学校を訪問しました。新しい管理職に、改めて本人の気持ちを伝え、今年度の文化祭のあり方や体制について話し合いました。
- このように、せたホッとでは、一回の訪問で終わりとせず、フォローアップしていくことも大切にしています。

## ～私立中学生の学校・教職員等の対応に関する相談～

### 所内面接(本人へのフィードバック)

「せたホッと」

本人

・本人の傷つき、つらかった思いを、担任と管理職に伝えた  
⇒本人の気持ちをすべて理解できたわけではないと思うが、傷ついたことはわかってくれたと思われる  
⇒担任と生徒との信頼関係のずれについて考えるきっかけになったのではないかと  
・管理職として、学校全体で共有し、一人に負担がかからないようなサポート体制や企画書の提出日などは検討したいと話してくれた

・いろいろと悩みや葛藤がありながら、それでも前に進むというのは大変だったと思う。担任への気持ちにもしっかりと向き合っ、匿名ではなく伝えようとする気持ちはすごいと思う。

・直接報告してもらって、どういう風に話してもらえたかがわかり、安心した。  
・自分にしかわからない、ちょっとした担任の変化もあった。  
・学校全体として、考えてくれるのはうれしい

周りからは「頑張るしかない」と言われ、それが自分にとってつらかった。「せたホッと」が話を聞いてくれて、自分がどう考えているかが整理されて、気持ちにも変化がでてきた。

思い出したり、つらい時があるものの、何かあれば相談したい  
いまは目標があるため、それに向かってがんばりたい

見守りとエンパワメント

せたホッとでは、相談者本人へのフィードバックも行っています。

#### ●せたホッとから本人へ、次のことを伝えました。

- ・傷つき、つらかった思いを担任と管理職に伝えた。傷ついたことはわかってくれたと思う。
- ・信頼関係のズレについても考えてくれると思う。
- ・管理職は、問題を学校全体で共有し、一人に負担がかからないような体制をとることや企画書の提出日の検討することを話してくれた。

#### ○本人からは、次のような話がありました。

- ・直接報告してもらい安心した。
- ・担任は変わってきた。
- ・この問題を学校全体として考えてくれるというのは、うれしい。

#### ●また、せたホッとから次のように労いました。

- ・悩み、葛藤しながらも前に進むといのは大変だったと思う。
- ・担任への自分の気持ちとしっかり向き合い、匿名ではなく伝えたのはすごいことだと思う。

#### ○本人からは、次のような言葉を聞くことができました。

- ・周りから、頑張るしかないと言われつらかった。せたホッとが話を聞いてくれて、考えが整理され、気持ちに変化が出てきた。
- ・思い出したり、つらいときもあるが、何かあればまた相談したい。今は目標に向かって頑張りたい。

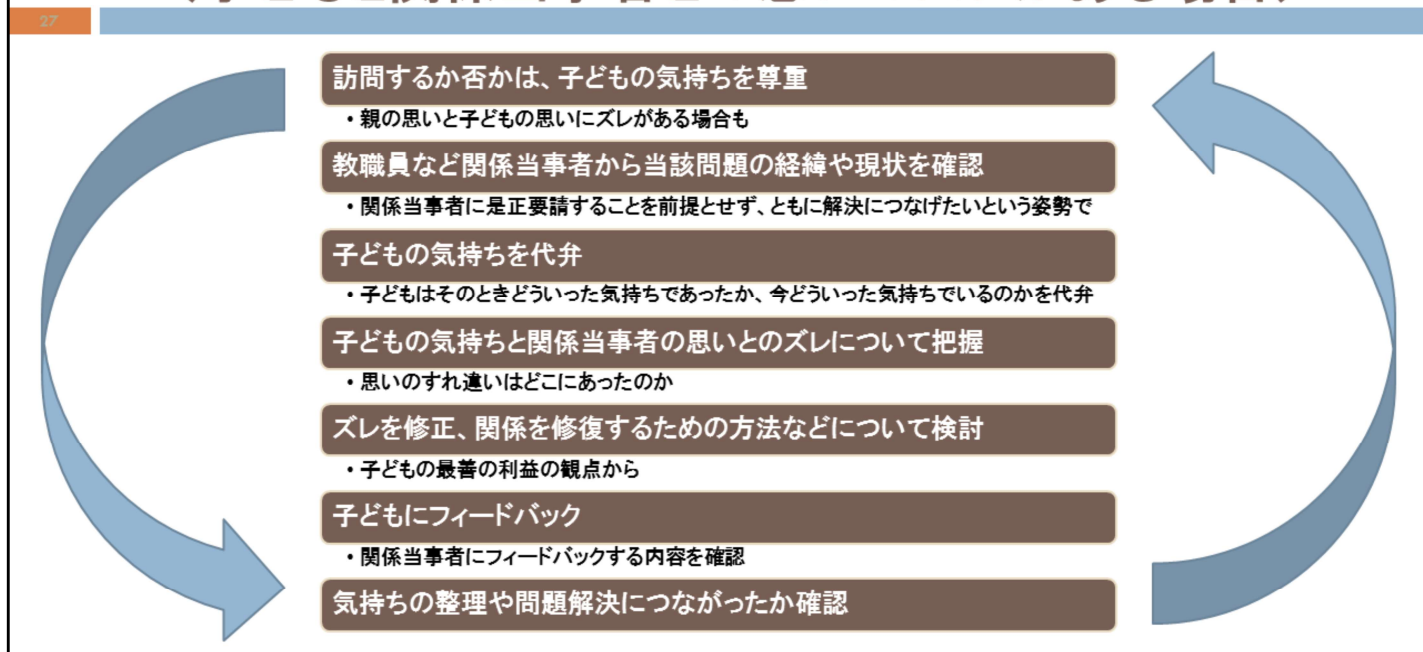
このように、せたホッとでは見守りとエンパワメントに努めています。事例の紹介は以上です。

## 「せたホッと」における子どもの権利を基盤とした対話的アプローチ(調整機能)とは

26

- 事例を紹介させていただきました。リアルな動きがご理解いただけたでしょうか。こういったケースはいくつかありますが、なかなかせたホッとにつながってきません。電話やメールをしてくれても途切れてしまう、何度もやり取りをして面接につなげるまでには大変時間がかかります。
- このケースでは、時間をかけ、丁寧なやり取りしたことにより、やっと面接につながりました。何度もやり取りをするなかで、もやもやの解決に向けて本人の意思が明確になり、来年の体制の変化まで求めてきました。
- では次に、せたホッとにおける、子どもの権利を基盤とした対話的アプローチ、調整・代弁とも言えますが、これについてお話をさせていただきたいと思います。

## 学校など関係機関等に訪問する事案 (子どもと関係当事者との思いのズレがある場合)



先ほどご案内した事例のように、子どもと関係当事者との思いにズレがあり、学校など関係機関等に訪問する場合がございます。

- ①まず、訪問するか否かは子どもの気持ちを尊重して決めます。親の思いと子どもの思いにズレがある場合もあるので、子ども自身はどうしたいのかをしっかりと確認することが大切です。
- ②そして、訪問した場合には、教職員など関係当事者から当該問題の経緯や現状を確認します。関係当事者に是正要請をすることを前提にはしないで、先生たちの思いも聞きながら、ともに解決につなげたいという姿勢で訪問します。
- ③そして、子どもが伝えてほしいこと、そのときどういった気持ちだったのか、今どういった気持ちなのかを、代弁して関係者に伝えます。
- ④子どもの気持ちと関係者の思いのずれ違いがどこにあったのかについて、先生たちの驚きや反省も受け止めながら把握していきます。
- ⑤そして、子どもの最善の利益の観点から、ズレを修正、関係を修復するための方法について話し合います。子どもとの関係を紡ぐ作業とも言えます。
- ⑥さらに、関係者に内容を確認したうえで、結果を子どもにフィードバックします。
- ⑦それにより、子どもの気持ちの整理や問題解決につながったかを確認します。

そして、状況が変わる場合もあるので、またうまくいかなかったら連絡してほしいと伝えます。

事例のように、繰り返しやり取りをする中で、自分のもやもやの解決だけでなく、学校の改善につながったことは、本人の自信につながったと思います。丁寧に子どもの気持ちを尊重することが何より大切です。



## 「せたホッと」における子どもの権利を基盤とした対話的アプローチ(調整機能)とは

28

子どもの声や思いをもとに、子どもの気持ちを代弁しながら、すれ違っている子どもとおとな、子どもどうしの関係を対話という手法で調整

相互理解と相互承認、解決に向けた合意形成を促す

お互いの気持ちを橋渡し、それぞれを理解し尊重する過程を通じて、関係を再構築していく働きが「調整」の優れた機能といえる。

せたホッとでは、子どもの権利を基にした対話的アプローチ（調整機能）を実施しています。

- 子どもの声や思いを基に、子どもの気持ちを代弁しながら、すれ違っている子どもとおとな、あるいは子どもどうしの関係を、対話という手法で調整していきます。
- その過程の中で、相互理解と相互承認、解決に向けた合意形成を促していきます。
- お互いの気持ちの橋渡しをし、それぞれを理解し、尊重する過程を通じて、関係を再構築していく働きが、調整の優れた機能です。

# 子どもの権利基盤型アプローチとは

国連・子どもの権利委員会 第2回総括所見(2004年1月)を踏まえて、平野裕二氏は「権利基盤型アプローチ」について以下のように述べている。

○権利の保障は、子どもおよびそのまわりのおとなが持てる力を十分に発揮・強化できるようにすること（エンパワーメント）を通じて進められなければならない。そのためには対話・協力・パートナーシップの精神が必要であるし、とくに子どもの意見を正當に尊重すること、子ども参加を促進することが求められる。

（平野裕二「国連・子どもの権利委員会が見た子どもの権利 ～様々な差別の解消と実効的な権利救済を勧告～2004年3月）

<http://childrights.world.coocan.jp/yujihirano/lecture/040325a.htm>

国連・子どもの権利委員会においても、

- 子どもの権利の保障は、子どもおよびそのまわりのおとなが持てる力を十分に発揮・強化できるようにすること（エンパワーメント）を通じて進められなければならない。
- そのためには対話・協力・パートナーシップの精神が必要であり、とくに子どもの意見を正當に尊重すること、子どもの参加を促進することが求められるとされています。

これこそが、子どもの権利を保障する活動と言えます。

# 「せたホッと」の活動と子どもの権利条約の一般原則

「せたホッと」のケース対応において、いつも立ち返って考える原則

- **子どもの権利条約の一般原則**
  - **生命・生存・発達の確保(6条)**
  - **子どもの最善の利益の第一次的考慮(3条)**
  - **子どもの意見の尊重・参加権の保障(12条)**
  - **いかなる種類の差別の禁止(2条)**

参照 「せたがやホッと子どもサポート 活動報告書 <令和3年度>」 はじめに 30

私たちは、どのように活動したらいいのか悩んだときは、子どもの権利条約の一般原則に立ち返ることにしています。

- まず、生命・生存・発達の確保を心がけます。  
小学生・中学生・高校生は異なるので、それぞれに即した対応が求められます。
- そして、子どもの最善の利益を第一次的に考慮します。  
真の子どもの利益は何なのかを慎重に検討します。
- また、子どもの意見表明権と合わせて、子どもの意見を尊重します。
- 差別がないかについても配慮します。

この点については、令和3年度せたホッと子どもサポート活動報告書の冒頭にも記載しておりますので、ご参照ください。



## まとめにかえて ～「せたホッと」の特質と効果

- ①子どもの利益・権利の擁護・促進を目的とし、常に子どもの最善の利益を第一に考えている。  
⇒子どもの権利条約に基づく相談・救済の実践
- ②子どもの現実に寄り添い子どもとの対話を深めるなかで、子どもとともに最善の利益を追求し、そうした活動を通し行動の選択肢を子どもが豊かにもてるようにする、すなわち子どものエンパワメントを図る。  
⇒子どもの元気の回復に寄り添う
- ③代弁、支援、調整をおこなうなかで子どもを巡る関係の再構築に寄与する。  
⇒権利侵害からの救済
- ④関係者との対話を通じて、よりよい仕組みづくりを推進できる。  
⇒個別の子どもが抱える問題から仕組みや体制等の改善

条例上の権限を背景に  
対話を通じて  
改善につなげられる

最後に、せたホッとの特質と効果についてお話しさせていただきます。

- ①せたホットは、子どもの利益、権利の擁護・促進を目的とする機関であり、常に子どもの最善の利益を第一に考えて活動しています。つまり、子どもの権利条約に基づく相談・救済を実践しています。
- ②そして、子どもの現実に寄り添い、子どもと対話を深めるなかで、子どもとともに最善の利益を追求します。  
そうした活動を通して、子どもが行動の選択肢を豊かに持てるようにする、すなわち子どものエンパワメントを図るよう努めています。  
このように子どもの元気回復に寄り添っています。
- ③解決に向けて、代弁、支援、調整を行いながら、子どもを巡る関係の再構築に寄与しています。また場合によっては、権利侵害からの救済に当たります。
- ④そして、関係者との対話を通じて、よりよい仕組みづくりを推進しています。  
文言による是正要請だけではなく、対話を重ねていくなかで、子どもが抱えている問題の解決だけでなく、仕組みや体制などの改善につなげていきます。

こういった活動ができるのは、世田谷区子ども条例において、せたホットに調査・調整是正要請などの権限が与えられているからです。

以上で第2部の説明を終わります。ご清聴ありがとうございました。

ご清聴ありがとうございました



「せたホッと」マスコットキャラクター  
なちゆ